

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3597200017		
法人名	社会福祉法人 和木三志会		
事業所名	グループホームわきあいあい苑		
所在地	山口県玖珂郡和木町瀬田4丁目1-1		
自己評価作成日	平成26年9月4日	評価結果市町受理日	平成27年5月22日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成26年10月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・入居者、ご家族の思いを大切に、安心して過ごしていただけるよう努めている。 ・散歩や外食など外出の機会をつくり、楽しみのある生活が送れるよう努めている。 ・食事は入居者と一緒に3食手作りをしている。食器や盛りつけで季節を感じていただける様工夫している ・掃除、洗濯を入居者と一緒に行い、一人一人が役割をもった生活ができる工夫をしている。 ・散歩やレクリエーションを日課に取り入れ、楽しみをもてるよう支援をしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、近くにバラ公園があり散歩時には四季折々に咲く花やバラの花の観賞をされたり、公園内にいるウサギに餌をやってもらえるなど、外出や季節の移り変わりを楽しむことが出来る環境の中に立地しています。食事は、利用者の好みを聞かれて、法人の栄養士に相談して助言を得て職員が献立を立てられ、三食とも事業所でつくっておられます。利用者は野菜の下ごしらえや後片付けなどできることを職員と一緒にされ、会話をしながら楽しく食事をしておられます。併設の特別養護老人ホームに来訪されている演芸や掃除、草取りなどのボランティアとの交流や、法人主催の夏祭りで子供会や地域住民と交流されています。利用者の日頃の健康管理や緊急時には併設施設の看護師の協力が得られ適切な医療が受けられるよう支援されています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、活き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を作成し、管理者と職員で話し合う事で、その理念が実践できるように努めている。	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所の理念を全職員で考えて作成し、事業所内に掲示して共有している。課題や問題が生じた時は理念に立ち戻り、話し合いをして理念を共有し、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的に近隣に散歩に出かけ、地域の方たちと交流をしている。また、ボランティアの訪問などを受け入れ、入居者との交流の機会をもっている。	近くの公園内を散歩している時に、地域の人たちと挨拶を交わしたり、花をもらったりしている。併設の特別養護老人ホームに来訪している演芸や掃除、草取り、オムツたたみ、当のボランティアとの交流がある他、法人主催の夏祭りに子供会や地域住民の参加があり、交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域で活動されているサロンへ出向き、グループホームの説明や認知症の方の理解へ向けた活動をしている。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	評価の結果を職員全員に配布し、意義の理解や改善に向けた努力をしている。	管理者は自己評価について職員に説明し、意見を聞いてまとめている。全職員で取り組むまでには至っていない。前回の評価結果を受けて、職員で話し合い、事業所独自の理念を作成しているなど、改善に向けて取り組むように努めている。	・評価項目の理解と全職員での自己評価への取り組み
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日常の入居者の方の生活の様子をご家族、民生委員、地域包括支援センターの出席者へ説明し、出席者の方の意見を伺う事で、サービス向上へ生かしている。	2ヶ月に1回開催し、事業所の活動報告をして、意見交換をしている。地域代表は民生委員1名である。記録は閲覧できるようになっているが、簡単な記録のみで会議の内容が伝わりにくい。会議で利用者一人ひとりのレクリエーションについての意見があり、サービス向上に活かしている。	・地域メンバーの拡大と記録の工夫

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の 実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えな がら、協力関係を築くように取り組んでいる	災害時に町と連携をとり避難者の受入協力 を行った。また、町の企画する研修会へ参加 をするなど連携を深めている。	運営推進会議の他、担当課に電話や直接出 向き相談したり情報交換をしている。町の担 当者が事業所に立ち寄ることもあり、日頃から 協力関係を築いている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サー ビス指定基準及び指定地域密着型介護予防サー ビス指定基準における禁止の対象となる具体的 な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含 めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について研修をし職員間で共通理 解をする事で、入居者の人権に配慮した身 体拘束のないケアをしている。	身体拘束について内部研修で学び、職員全 員が身体拘束について正しく理解している。 玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケア に取り組んでいる。スピーチロックについても 気になることがあれば管理者が注意してい る。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法につ いて学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内 での虐待が見過ごされることがないように注意を 払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法について研修を行い、通 報先等を確認している。また、複数の職員が 関わることで、事業所内での虐待が見過ごさ れる事が無いようにしている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年 後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要 性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう 支援している	山口県社会福祉協議会等から出される、権 利擁護に関する資料やホームページに掲載 されている情報を基にして研修を行っている。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者 や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を 行い理解・納得を図っている	重要事項説明書に沿って十分説明し、理 解・納得していただいている。また、面会時 を利用し随時必要な情報を報告し、不安や 疑問点の軽減に努めている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や 処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望 を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を 設け、それらを運営に反映させている	契約時に苦情の受付体制等の説明を行うこ とで、利用者や家族が意見を出しやすい様 にしている。また、その意見を職員間で共有 し運営に生かしている。	苦情の受け付け体制や処理手続きについて 周知し、契約時に家族に説明している。面会 時や運営推進会議時に家族からの意見を聞 くようにしている。ケアについての意見があり、 職員間で共有し意見を反映させている。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や 提案を聞く機会を設け、反映させている	朝・夕の申し送りや勉強会等で職員からの 意見を聞き、運営に生かしている。また、職 員が意見を出しやすい職場づくりに努めて いる。	朝夕の申し送りや年代別に開催する勉強会 などで職員の意見を聞いている他、日常の業 務の中でも聞いている。シャンプーなど消耗 品の利用や確保についての意見があり、反映 させている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が個々の能力を発揮して働くことができるように、キャリアパスを導入した給与規則の改定に取り組んでいる。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修への参加や、事業所内の研修、併設の施設の勉強会などで研修の機会を設けている。また、資格取得の際、勤務調整も行っている。	外部研修は、職員の経験や段階に応じて参加の機会がある他、資格習得のための支援をしている。法人研修は、年1～2回、インフルエンザや腰痛についての研修があり、参加している。内部研修は、管理者が講師となり必要時必要な内容で勉強会を実施している。町や山口県宅老所・グループホーム協会が開催する認知症の研修会に参加している。	・内部研修の充実
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に加盟し、研修会に参加、交流している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前面談において本人から話を聞き、家族やケアマネジャーからの情報も踏まえて、本人の意向を引き出し安心して話せるように心がけている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面談や入所準備の段階からご家族と連絡を取り合う事で、信頼関係を築ける様に努めている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族のニーズを把握し、入所時のケアプランに反映させている。必要に応じて他のサービスも考えていきたい。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々の能力に応じて役割を持った生活を送れるよう、寄り添う気持ちで支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話連絡により家族と情報を共有し、本人と家族の関係にも配慮しながら支援を行っている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の協力で墓参りや帰宅、外食などを行い、知人・友人との面会も楽しんでいただいている。また、併設の施設利用者とも日常的に交流していただいている。	友人や知人、併設施設に来訪するボランティアの人達との交流を支援している他、家族の協力で墓参りや外食、職員と一緒に毎月外食や町内の衣料品店に買い物に出かけていくなど、馴染みの人や場との関係が途切れないように努めている。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の会話に気を配り、認知症の症状も考慮に入れ、より良い関係が保たれる様支援している。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	併設の特養への入所が必要になられた場合、手続きがスムーズに行われる様支援している。特養へ入所された後もグループホームへ遊びにきていただき、入居者との交流が継続できる様に支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者ご本人の状態の変化に対し、その対応をご家族と都度話し合い、意向を引き出すように心がけている。	入居時のアセスメントを活用している他、日々の生活の中で利用者から思いを聞き取り、援助記録に記録して、思いや意向の把握に努めている。困難場合は、カンファレンスで話し合い本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の事前面接を通じて、生活歴などの把握に努めている。また、他のサービス事業所からの協力も得て情報収集を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者ご本人の心身の状態の変化に注意している。また、ご家族と連絡をとる事により正しい現状把握に努めている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族の意向、医師の意見などを基本に、担当スタッフ、サービス計画担当者で話し合い、ケアの見直しをはかっている。状態の変化があれば、その都度検討している。	本人や家族、医師の意見などを参考に、利用者の担当職員やケアマネージャーを中心にカンファレンスで話し合い、介護計画を作成している。3ヶ月ごとにモニタリングを実施し、1年ごとに直している他、状態の変化があればその都度見直しを行い、現状に即した介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人ファイルに日々の状態を記録し、スタッフが勤務前に目を通すことで情報を共有している。朝・夕申し送りを行い、伝達・確認をして実践につなげている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族が遠方の方が入居されたので、ご家族に代わってできる支援を視野に、柔軟な取組をしていきたい。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の衣料品店など、馴染みのある店へ買い物に出かけている。事前に連絡し、店の協力を得て買い物を楽しんでいる。今後は町の行事に参加していきたいと考えている。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の了解を得て、協力医院をかかりつけ医として、週2回往診を受けている。他科受診は家族に付き添っていただくが、必要な情報を伝えている。	協力医療機関をかかりつけ医として、週1～2回の訪問診療を受けている。家族の協力を得て他科受診の支援をし、バイタルなどの医療情報を提供している。緊急時や日ごろの健康管理は併設する特別養護老人ホームの看護師に相談し助言を得るなど、適切な医療が受けられるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設の事業所の看護職員に相談し、入居者の健康管理について適切な対応を心がけている。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、家族、病院関係者と情報交換し、より安心して治療が受けられる様、配慮している。また、通院時にはカンファレンスの機会を持っている。退院時には、これからの対応等について、ご家族を交えて決定している。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や看取りについて、常に本人やご家族の意向を尊重し安心していただける様、併設の特養と連携をとりながら対応している。	重度化した場合や終末期のあり方について、契約時に家族に説明している。実際に重度化した場合には、早い段階から家族と話し合い、移設を含めて方針を共有し、支援に取り組んでいる。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	ヒヤリ・ハット事故報告書に記録し、職員で対応策を話し合い、事故防止の意識を共有している。また、応急手当や初期対応の勉強会をし緊急時に備えている。	ヒヤリハット・事故報告書に記録し、対応策を話し合い、利用者一人ひとりの事故防止に取り組んでいる。応急手当や初期対応について勉強会を行っているが、全ての職員が実践力を身につけるまでには至っていない。	・全ての職員が実践力を身につけるための応急手当や初期対応の定期的な訓練の実施
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設全体で避難訓練を行い、併設の特養との協力や避難方法を全職員で確認している。また、苑の行事を通じて、地域との協力体制ができるようにしている。	避難訓練は法人全体で年2回、利用者も参加して実施しており、併設する特別養護老人ホームの協力や支援体制を確認しているが、地域とは避難訓練への参加を含め、協力を築くまでには至っていない。	・地域との協力体制の構築
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴時、お一人で入浴したい方への配慮や、紙パンツの使用が分からないようにするなど、プライバシーに配慮した対応をしている。	プライバシーの確保や人権に配慮し、利用者一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	やってみたいレクリエーションを聞いたり、日常生活の中で、洗濯干しやお盆拭き・調理など、意欲のある人に声かけをさせていただいている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	年齢や体力に合わせ自由に時間が使えるよう配慮し、希望に沿った活動ができる様声かけをしている。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	各居室にて毎朝洗面支度をして頂いている。化粧の声かけや介助も行っている。入浴時には、衣服を選んでいただくなど、ご本人のレベルに合わせたお手伝いを心がけている。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と一緒に食事の準備、盛りつけ、配膳、下膳食器洗い、片付けをして頂いている。職員は同じテーブルにつき、同じ食事を摂っている。食器や盛りつけを工夫し楽しい食卓になるように心がけている。また、行事メニューも入居者の方の意見を聞き取り入れている。	利用者の好みを聞いて取り入れたり、法人栄養士に相談して職員が献立を立て、三食とも事業所で造っている。利用者はジャガイモの皮むき等の下ごしらえやテーブルふき、下膳、盆ふきなどできることを職員と一緒にして、会話しながら食事をしている。弁当をつくったり、購入したりして外で食べたり、抹茶を楽しんだり、月1回の外食、おやつづくり(ホットケーキ、パンケーキ、バナナジュース、チョコレート等)など、食事を楽しむことの出来る支援を行っている。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量の記録をとることや水分補給の支援を行う事により、健康状態の把握に努めている。水分摂取については、午前・午後1度ずつお茶や軽飲料の時間をもうけたり、夜間はペットボトルを用意するなどしている。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々に口腔ケアの声かけや介助を行っている。就寝前には義歯洗浄剤を使用し、清潔保持に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	声かけや定時誘導でトイレでの排泄を支援している。排泄の自立に向けて、入居者のペースに合わせた支援に努めている。	排泄チェック表により、排泄パターンや排泄行動を把握し、排泄の自立に向け、声かけや誘導でトイレでの排泄が出来るように個々に応じた支援をしている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食にヨーグルトを食べていただくことや、水分摂取に配慮している。また、朝食後にトイレ誘導をする事で、自然排便を促している。排泄チェック表により排便確認を行っている。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	職員が1対1で対応し、ゆっくり入浴していただけるようにしている。また、一人で入浴したい方への配慮を行っている。四季それぞれの季節にはバラ湯や柚湯で入浴を楽しんで頂いている。	入浴は毎日、13時から16時まで可能で、利用者の希望やタイミングに合わせて、ゆっくり入浴できるように支援している。風呂場には浴槽につながる長いすが設置しており、安心して安全に入浴できるよう配慮している。入浴剤やバラ湯、ゆず湯で入浴を楽しんでいる。足浴や清拭の支援もしている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者の体調に合わせ、活動や休息をとって頂いている。夜間はパジャマへの介助声かけを行い、就寝していただいている。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各自のファイルに処方箋を綴じており、職員がすぐ確認できるようにし、個々に応じた介助を行い飲み忘れや飲み残しの無いように努めている。週2回の医師の回診日に症状の報告を行っている。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物干しや食事の準備の手伝い、得意なレクリエーションを行うことで、全員が一日を通して活躍できる場がもてるようにしている。	カラオケや体操、運動会など利用者全員で行う内容もあるが、洗濯物干し、食事の準備、新聞を取りに行く、編み物、貼り絵、ぬり絵、習字、テレビの視聴など利用者一人ひとりがその時にしたいことや楽しみたいことなど一人ひとりの希望に合わせて、活躍できる場面づくりをして、楽しみごとや気分転換の支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	月に一度は特養と一緒に外出したり、気候のよい春・秋には散歩の支援をしている。ご家族の協力のもと、お墓参り、外食など外出もされている。	近くの公園内の散歩やバラの花を見たり、ウサギに餌をやったりしている他、毎月1回外食に出かけたり、町内の衣料品店に買い物に出かけたりしている。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時に自分で選んで購入して頂けるように支援をしたり、施設内の自動販売機でジュースを買えるように支援している。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者本人から電話や手紙の依頼があった場合は、支援ができる体制を整え、ご家族から電話があった場合も取り次ぎをしている。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールには、季節の花を生けたり、時期によって季節感のある工作を飾るようにしている。温度、湿度を確認し、入居者それぞれに合った温度管理を行っている。	対面式の台所からは調理の音や匂いがしていて、生活感や家庭的な雰囲気を感じることができる。リビングには季節の花を生け、壁には利用者のぬり絵や職員と一緒に作成した季節に合わせた貼り絵が飾っており、季節感が出るように工夫している。温度・湿度・換気等に配慮し利用者が居心地よく過ごせるよう支援している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内の共用空間では、入居者同士で語らう食卓と、一人になれるソファや居室を活用し、食卓の席の位置など、できる範囲で居場所の工夫をしている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはご家族と相談しながら、ご本人の好みの物・なじみの品などを持ち込んでいただき、安心できる居室づくりに努めている。	使い慣れたテレビ、ベット、タンス、ハンガーラック、椅子、布団、衣服、好みの写真などを持ち込み居心地よく過ごせるよう工夫している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居時はトイレの距離等に配慮し、ご本人の能力に応じた居室提供や、生活に必要な物品の配置に気をつけている。		

2. 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホームわいあいあい苑

作成日： 平成 27年 5月 22日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	4	管理者は自己評価及び外部評価について職員に説明し意見を聞いているが、全職員で取り組むまでには至っていない。	評価項目の理解と全職員での自己評価の意義の理解や改善に向けた取り組みを進めていく。	評価の結果を全職員に配布し、自分で改善できる項目を選び取り組むことで、評価の意義の理解や改善につながるよう努める。	12ヶ月
2	14	内部研修は、季節的な感染対策等を行っているが、充実した内部研修は行えていない。	充実した内部研修が行えるよう努める。	年間計画を立て、計画的に内部研修を行うことで充実を図る。	12ヶ月
3	35	応急手当や初期対応について、全ての職員が実践力を身につけるまでには至っていない。	全ての職員が実践力を身に付けるよう、繰り返し訓練を行う。	併設の特別養護老人ホームの看護職員を講師として招き、研修や訓練を行うことで全ての職員が実践力のレベルアップに繋がるようにする。	12ヶ月
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。